

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	神奈川工科大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カナガワコウカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	工学部 情報学部 創造工学部 応用バイオ学部
	担当教職員名・役職	金井徳兼 創造工学部長
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	54
	受入企業等数	23
	受入企業等名	オーデオテクニカ 日本ピーマック 神奈川中央交通 きんでん マツダ 日立オートモティブ トヨタ自動車 横浜市役所 厚木市役所 リコージャパン 東光電気工事 シミズ・ビルライフケア マイクロ・テクニカ 東和コンピュータマネジメント ニッポンダイナミック システムズイーネット 日本リライアンス 旭日電気工業 高砂熱学工業 中日本ハイウェイ・エンジニアリング 東京富士電機 JFEスチール東日本製鉄所 ソニック ダイオーエンジニアリング
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	就業体験型インターンシップ 企業等における就業体験5日間以上の取り組みと、課題解決型インターンシップ 企業等での訪問実習3日間以上と大学での課題解決ワークショップを組み合わせた取り組み、両取り組みとも、事前授業8回、事後学習2回を設定している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次以上
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習としての授業5回 事後学習としての授業3回 に加え、就業体験及び課題解決型インターンシップ実習を総合評価して単位を認定している。総合評価60点以上をN評価(認定)。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	授業形式にて5回(90分)を実施。1)ガイダンス、2)社会人基礎力の理解、3)業界や企業職種について、4)エントリーシートの作り方、5)課題解決の手法とは? について 授業形式 グループワークにて実施。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習として3回の授業を実施。1)実習の振り返りと報告書の書き方 2)実習報告書のまとめ 3) 成果報告会
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施企業を担当教員が訪問し、実習の状況を確認している。また、企業担当者からは実習状況に関するコメント及び評価を受けている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1)実習学生は毎日実習日報を作成し、企業担当者からコメントを受けている。その日誌を大学にも評価している。2) 企業担当者による実習全体からの各項目に関する評価を受けている。3) 事後作成の報告書及び発表会における対応を評価している。1)～3)の評価を総合評価して教育効果を測定している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間 5日以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間 5日以上
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施期間は1企業にて原則5日間以上と定め、マッチング等の事由で実習期間が確保できない場合は 複数の企業の実習を合わせて5日以上の実習にて単位取得の条件としている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1) 本学開催の産学懇談会等でインターンシップに関する意義等を説明し協力企業に対して事前打ち合わせを行い、プログラム内容について意見交換している。2) 受け入れ企業は実習期間中の学生の行動等(積極性 協調性 態度など)に関して評価をお願いしている。成果報告会には各企業担当者も参加を依頼しコメントや質疑応答をお願いしている。3) 本学 産学人材情報交流会(年2回開催)にて、インターンシップを中心としてキャリア教育をテーマとして情報交換を行い、プログラムの企業と協働して改善等を行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	神奈川工科大学
	担当部署名	創造工学部
	担当者役職名	学部長
	担当者氏名	金井徳兼
	電話番号	046-291-3244
	メールアドレス	nkanai@he.kanagawa-it.ac.jp